



二葉幼稚園

園のたより

2022年

3月



3月の聖句

わたしは よのおわりまで
いつもあなたがたとともにいる。

マタイ28章20節

3月のさんびか

きゅうこんのなかには

こどもさんびか かいていばん135

信じる



♪この広い世界で 僕たちは出会った でもそれは偶然じゃなくて 意味のあることなんだ(中略)
たくさんの愛 受けとったから 僕はここまで大きくなった あなたのこどもであることが 僕の宝物♪
これは、今年度の生活発表会で、年長が最後に歌った「ぼくのたからもの」(作詞作曲:関 智之)の一部
です。全園児一人ひとりが素晴らしい。その真摯な姿に堪えてもこらえても頬をつたう涙・・・。

今年度は『ともに喜んで～すべての歩みの中～』を年主題とし、年間聖句「一つの部分が苦しめば全ての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれば全ての部分が共に喜ぶ」コリント12章26節」を掲げ、私達は自問自答しつつ、共に悩み、共に喜び合いながら、保育を進めて参りました。

葛藤しながら、愛しい一人ひとりを思い、ありのままを受けとめよう、寄り添おうと歩んできました。

年少は1学期から親しんできた活動を中心に。眠っているカスタさんを「朝だよ。おはよう」と思いつき鳴らし「ス～トップ」の合図でピタッと音を止める。皆で心をあわせ一つになる気もち良さ！家族以外の人と共に生きる子ども達の日常はトラブルがつきもの。その都度、根気強く「自分」の気もち「他者」の気もちを共に考え、言葉にしながら互いの思いの違いに気づく。悲しい時も嬉しい時も一緒に過ごす友達。♠君の言葉を借りれば「俺の○ちゃん、俺の◇先生」第2の家族になった仲間と一緒に、年中に向け、ニコニコはすぐそばに、探せばきつとある！自分の心次第！！

年中は欠席した友達のリボンボタンも一緒に持ち、劇遊びを楽しみました。皆でクレヨンの衣装を着ると自然に笑顔。何を描く？どう動く？どんな言葉と言う？各グループで一枚の絵を仕上げるのも話し合いも初挑戦。思いを伝え合い、一つの創作劇を皆で嬉々として作り上げました。34人が自分の色、輝きを放ち、二葉の空に美しく豊かな虹を架けました。春にはいよいよ憧れの年長です。

年中の歌「青い空に絵を描こう」も、年長の歌「ぼくのたからもの」も間で曲調が変わる部分があります。特に指導をせずとも子ども達は歌詞や曲想を感じとり、気もちをこめ自然にそっと歌いました。その様子から子ども達が日常のご家族との会話、友達や先生との会話、聖句、讚美歌、お祈り、etc・・・。様々なことから、心をフルにつかって、言霊に触れ、言葉にこめられた思いや意味を深い所で感じ取っているのだと改めて実感しました。特に年長は11月に安田美穂子さんより、発声や歌の指導を受け、讚美歌「ちいさいひつじが」の歌詞を考えて、思いを込め、言葉を丁寧に歌うことを体験しました。その経験も加味され、何度聴いても心に染入る楽曲に出会い、人生の支えになる歌となりました。ノリに乗って心底楽しんだ合奏、入場から自信をもって伸び伸び踊ったチア、仲間と共にそこに在る喜びに溢れ、自分を信じて未来へ！

「ドイツ語では感謝するという意味の「ダンケン(danken)」と考えるという意味の「デンケン(denken)」は非常によく似ています。英語でも考えるは「think」、感謝するは「thank」で、どちらも「何か心に向ける」という意味の同じ語源に由来しています。」<心を癒す言葉の花東:アルフォンス・デーケン>子ども達の懸命な姿はどんな言葉にも勝る感動を人に与えます。子ども達に心向け、子ども達と過ごすこの瞬間に思わず感謝せずにはおれません。保育に夢中になれる幸せを感じ、私達も懸命に生きたい、心底熱い思いがこみ上げます。ご家族の皆様はこの一年も心より感謝申し上げます。主に在りて【園長】